

ワふる

さっぽろ



特集 札幌の少子化を考える—男女共同参画社会の「子産み・子育て」

インタビュー さっぽろ ひと つながり～仕事と家庭を両立させる働き方～

札幌の少子化を考える

男女共同参画社会の『子育て』



札幌市立大学 教授
原俊彦さん

1953年東京生まれ。早稲田大学政治経済学部政治学科卒業。独フライブルグ大学留学（社会学・政治学・経済政策専攻）、社会学博士（Ph.D.）取得。帰国後（財）エネルギー総合工学研究所（主任研究員）を経て（株）研究開発コーディネーターを設立（代表取締役）。1988年北海道東海大学国際文化学部 助教授、1995年 同教授、2006年より現職。専門：人口社会学。人口問題を中心に様々な分野の統計分析、シミュレーション・モデルの開発を行う。

1 全国で一番、低い出生率？

札幌の合計特殊出生率（女性が生涯に産む子どもの数の指標）が、2005年に0.98と初めて1を割り込み、全国政令指定都市中最低（東京区部の0.93を除く、東京都全体では0.98）となったというので、昨年は様々なメディアから取材が殺到しました。今年も全国的に、景気回復や第二次ベビーブーム世代の駆け込み出産などで、出生率の一時的な回復傾向が見られるので、札幌の出生率も1.00台を回復し、ほっと一息という感じになるだろうと思います。ただ専門家の立場からすると、もともと小数2桁目は誤差の範囲といわれていますし、再生産に必要な値は2.07なので、1を回復したからと言って楽観するの的を外れた話で、そういう意味では0.98という数値より、その中身を考える必要があると思います。

2 晩婚晩産化からも少しズレている札幌の少子化

札幌の出生率の低下も全国とほぼ同じ動きを示していますが、全国値を100とした場合、1980年頃までは90ぐらいだったのが、近年は78まで低下、年々、全国との格差が拡大しています。合計特殊出生率は、女性で結婚し

ている人の割合（有配偶率：結婚行動の指標）と、結婚している人が子どもを産む割合（有配偶出生率：出産行動の指標）の二つの要因によって決まりますが、札幌の場合は両方が同じように少子化に影響している点で他の政令指定都市とは異なっています。というのも、通常、大都市では、29歳までの比較的若い年齢層で結婚する女性が少なく、これが少子化の主な要因となっていますが、その一方、晩婚晩産化が進んだ分だけ、遅れて結婚し子どもを産む人も（また最近ではできちゃった結婚も）多くなるので夫婦出生力低下の影響はそれほど大きくありません。しかし、札幌市の場合は、30歳を過ぎても他の政令指定都市ほど、女子の初婚率が高まらず、その結果、高年齢の有配偶率や有配偶出生率も伸び悩む傾向が見られ、これが全国との格差拡大につながっています。

3 学歴と産業構造の影響

なぜ、札幌で、こういう特異な傾向が見られるのか？という点について、色々な社会経済要因を分析してみたところ、これには男性の学歴や就業構造、また移動率が強く関係しているらしいことがわかりました。

統計的には最終学歴が高校卒で終わる男性や

第二次産業（製造業など）に従事する男性の割合が高い地域ほど、29歳以下の比較的若い年齢で結婚し子どもを持つケースが多くなる傾向があります。これに対し、札幌の場合は、大学や専門学校などが集中している関係もあり、政令指定都市の中でも最終学歴が高卒となる男性の割合が極めて低いこと、またサービス産業を中心とした産業構造の関係で、川崎市などと比べ製造業などに従事する男性が少なく、これが若年層の低出生力の重要な要因となっています。

これだけならその分、高年齢でのキャッチアップ（取り戻し）が起きそうなものですが、さらに、札幌の場合は、大学卒業・就職の年齢にあたるところで、男子の人口流出率が女子より高く、以降、高年齢になるほど、女性が男性より過剰になることがわかっています。つまり、札幌の場合、女性が晩婚・晩産化という形で、家族形成の遅れを取り戻そうとしても、その時期には、ちょうど良い独身男性の数が相対的に少ないという状況に直面します。このため30歳以上の女子の初婚率が上昇せず、その結果、有配偶出生率も伸び悩むこととなります。

4 少子化の何が問題か？

という訳で「全国で一番、低い出生率」の原因は、地域の学歴や産業構造にあると思われるので少子化対策で出生力を上げるといっても、札幌の場合、一朝一夕に行きそうにありません。

確かに現状のまま推移すると、札幌市の人口も2015年頃には減少期に入り（もっとも日本全体の人口減少はすでに2005年から始まっていますが）高齢化も急速に進んでいきます。ただ、子どもの数を増やすことで、このような動きを止めるには、出生率を再生産レベルまで上昇させるだけではダメで、産む女性の数を昔の規模（現在の2倍くらい？）に戻さないと間に合いません。だから人口減少・高齢化を防ぐ（たとえば年金制度の破綻を何とかするとか）という点で、この低出生率を問題にするのは無意味だと思っています。

5 男女共同参画事業としての『子産み・子育て』

それより、個人としての男女の生き方、あるいは男女共同参画社会の『子産み・子育て』という視点から、この問題を捉え直す必要があると思います。先にも触れましたように人口再生産に必要な出生率は2.07とされています。これは女性本人の再生産1人分と、男性の再生産1人分、さらに女性が再生産年齢に達するまでの死亡確率と出生時性比（男児105に対し女児100）の不足分を加えた値です。このことからわかるように『子産み・子育て』という作業は、まさに個人としての男女が協力し合い、共同参加することによって初めて達成しうる難事業なのです。医学や遺伝子操作が進歩した現代においても、依然として『子産み・子育て』という活動には男女の共同参加が不可欠なのです。

6 「ワーク・ライフ・バランス」の取れた都市生活をめざして

つまり、見方を変えれば、0.98という低出生率（再生産レベル2.07の47%）は、市民の半数以上が、男女双方にとって非常に重要な活動に参画できていないことを意味します。

近年、よく「ワーク・ライフ・バランス」ということが言われますが、個人が「生きること、生活すること」の中には、当然、個人の再生産である『子産み・子育て』という活動も含まれます。愛すべきパートナーを見つけ、ともに暮らし『子産み・子育て』を通じ、お互いの存在を明日に繋いで行く。男性であれ女性であれ、勉強や仕事に追われて、結果的にその大事な機会を逸してしまう。そういう人が過半数を占めるような状況というのは、あまり幸せな生活とはいえません。そういう意味で、より多くの人々が『子産み・子育て』を楽しめる、ゆとりのある都市生活の実現を図って行く必要があるのではないかと考えています。

男女共同参画週間講演会 気になる『結婚』の理想と現実

(6月23日)

札幌市男女共同参画センターでは、6月23日～29日の「男女共同参画週間」に併せ、医学博士・心理学者であり、現在聖心女子大学等で講師をされている小倉千加子さんを講師にお迎えし、「気になる『結婚』の理想と現実」というテーマで講演会を開催しました。現代の結婚事情や結婚観についてお話いただいた講演会の一部を紹介します。

■現代の結婚観

今、結婚式をあげる新婚さんの4組に1組は「できちゃった婚」です。これにより非常に早くに結婚して家庭に入っていき人と、なかなかその中に入らないで40歳ちょっと前くらいでやっと結婚をする。そういう風に二つに分かれていく訳です。

日本の若い女性に「結婚をする、妻になるということは、具体的にはどういうことを毎日しなければならないのか」と聞きますと、圧倒的の第1位が「晩御飯をつくること」なんです。日本では女性は結婚すると自分は晩御飯をつくらなければいけない。日本の若い女性ほど主婦として真面目な人はいないです。だから海外で日本女性は人気があるんです。にもかかわらず、女性にとって適当な相手がいない。女性が結婚に求める条件と云ったら、経済力があって、理解し合える人、それから家事に協力的な人であってほしい。その3つを条件にしている。しかしながら男性の方が女性に求める結婚の条件というのが、かわいいまたは美人、賢い、家庭的、経済力、体重が軽い。

さらに男子大学生が、「むちゃくちゃ好きな人とするより二番目に好きな人と結婚するくらいがいい」と、恋愛と結婚は別と言うようになってきました。一時的な衝動でいくら好きでも、その人が結婚相手の条件をあまりにも欠いていると結婚しない方がいいのではないかと。結婚というのは二人でする共同作業。共同経営パートナー、ビジネス・パートナーとの仕事である。一緒にいて安心感が得られる、人間的に信頼ができてビジネス・パートナーとして能力のある人、経済力のある女性がいいんですね。

■愛は長続きしない？

面白い調査がありました。既婚者は未婚者より幸せと思うと答えた人のほうが、思わないと答えた人よりも少なかった。これは未婚者を対象に聞いているんですよ。男性では、「結婚している同僚とかがいるけど大変そう」。女性でも、「未婚者のほうが楽そう」「自分にそんな生活ができるだろうか」。ちょっと自信のないところがあるみたいですね。こうい



う質問もしています。もしあなたが結婚をしたとして自分は離婚をすると思いますか？ と思いますと答えた人にだけ、さらにまた質問をしている。離婚の理由は何ですか？ 男性の1位は「自由な時間が奪われるのは耐えられない」。女性の回答の1位でもあります。そして2番目が面白い答えなんです。「相手への愛が長続きしないから」。アメリカの心理学者の研究によりますと恋愛は短くて半年、長くて2年半で終わると。最初は相手に何かをしてもらうとすごく嬉しくても、それがずっと続くと、してくれないことに腹が立つようになる。二人自閉的世界にずっといることは不可能だと思うんですね。だから3つ目のものがある。3として登場するのは子どもです。子どもや仕事というのは3の世界。それが無い人はペットを飼う。もう二人だけでは時間が埋まらない。遅かれ早かれ人間は、仕事をするとか子どもを持つとかペットを飼うとか、もうひとつのものを持たないと満足感が得られない。言い換えますと恋愛は終わっても結婚生活は続く訳です。

■結婚の理想と現実

結婚しても現実というのは非常に厳しいものがあることは大人はみんな知っています。若い人たちが結婚を夢見る時期は一番幸せですね。夢は自由です。どこまで見ても。ただ、授業ではあまり高望みはしてはいけないんだ、結婚してる人は皆妥協しているんだ。そういうことは言ってきています。それでも若い人たちは結婚するでしょうし、子どもを産むでしょうし、あるいは妄想に生きるでしょうし、ペットと一人で喋っているでしょう。同じ日の同じ時間に日本中で、それでも自分なりに幸せになりたいと願っていて、そのためになんとか努力をしようとしている。午前0時のテレビ放送が終了するとき、屋上のカメラから見た渋谷の風景が写りますけど、あそこに煌々とライトがついているんな人が歩いている。人間が生きるということのいじらしさに胸がいっぱいになるのです。

情報センターから関連図書のご案内

『結婚の条件』



- 著者■
小倉 千加子
- 出版社■
朝日新聞社
- 出版年■
2003年

結婚したいのに、なぜか世界一の晩婚化国日本。芸達者な心理学者がこの結婚難現象の秘密に迫る。平成のドラ娘・梅宮アンナ、勝ち組主婦・三浦りさ子など現代女性の生き方とお仕事観とは?各界口コミ評判をとったスーパーエッセー。

『幸福論』



- 著者■
小倉 千加子
中村 うさぎ
- 出版社■
岩波書店
- 出版年■
2006年

恋愛、結婚、仕事、子育てなど人々の生き方は激変し、少子化、階層化といった閉塞状況が日本社会をおおっている。現代女性の生き方を画期的な視点で論じる小倉千加子氏と、買物、整形、性の混沌を体験しながら高度消費社会の先端を生きる中村うさぎ氏が、この生きがたい状況をめぐり徹底的に語り合い、現代日本の見えない危機をえぐりだす!

情報センターからのお知らせ

情報センターは、札幌エルプラザ内公共4施設(男女共同参画センター、消費者センター、市民活動サポートセンター、環境プラザ)の図書室です。

情報センターでは、男女共同参画、消費生活、市民活動、環境に関する図書やビデオ等の資料の閲覧や貸出ができます。また、4分野に関する情報をパソコンを使って調べることができます。どうぞご利用ください。

❖ 情報センター (札幌エルプラザ1階)

開館時間 9:00~20:00 (貸出・受付 9:00~19:45)

※情報センター閉館時(20:00~22:00及び図書整理日(毎月最終日曜日))の返却は情報センター入り口に設置しております返却ボックスをご利用ください。視聴覚資料(ビデオ・DVD)等は、総合案内までお持ちください。

☎ 011-728-1223

<http://www.danjyo.sl-plaza.jp/jyouhou>

男女共同参画センターのボランティア活動紹介

男女共同参画週間講演会「気になる『結婚』の理想と現実」で実施した学習支援ボランティアの活動を紹介します。

今回の講演会のテーマにあわせ、学習支援ボランティア(※)のメンバーが、小倉千加子さんの著書や関連本を紹介した資料とプロフィールを作成しました。

当日は、小倉さんのプロフィールを会場の前にポスターサイズで展示し、作成した資料を一人ひとりへ手渡しし、参加者からの問合せに応えました。また、会場前では情報センターで所蔵している著書の展示を行いました。参加された方々は資料や展示した著書を手に取り、ご覧になっている姿が多く見られ、良い形で情報が提供できたと思います。

今後も札幌市男女共同参画センターのボランティア活動にご注目ください。

※(学習支援ボランティア)

男女共同参画センターの趣旨や男女共同参画に関する知識を学び、主催講座の受講の方に向けて情報提供を行っています。



さっぽろ ひと つながり

このコーナーでは、さまざまな分野で男女共同参画社会の実現を目指して取り組んでいる「人」や「団体」を紹介します。今回は、「ワーク・ライフ・バランス」の考え方を浸透させ、社員が自ら積極的に能力を伸ばすことができる環境の整備や制度の充実を図っている「JALスカイ札幌」で、実際に制度を利用しながら勤務している佐藤奈々子さんに仕事と結婚や出産などの両立についてお話を伺いました。

佐藤奈々子さん
(JALスカイ札幌 総務部 リーダー)



＜JALスカイ札幌＞は、1988年4月1日に創業。社員数は女性230名、男性39名。新千歳空港で、カウンターやゲート業務にかかわる旅客部、旅客数や貨物などの重量管理や、飛行計画についての機長とのブリーフィング業務などを行う航務部、会社運営・管理に関わる全ての業務を担う総務部の3つの部署で構成されています。

①「ワーク・ライフ・バランス」実現に向けて、主にどのような制度や取り組みを行っていますか。

最長で子どもが1歳に達するまで取得できる育児休職制度があり、現在までに制度を利用し復帰した女性社員が6名います。また、1歳未満の子どもがいる場合は1日1時間の勤務時間の免除があり、状況に応じて働き方を選ぶこともできます。

また、定時退社日というのがあります。部署によっては、到着便の遅れなどイレギュラーがあると徹底できないところもありますが、残業はないように会社全体で取り組んでいます。

その他に、季節特別休暇と年次有給休暇を併せて1年で22日間の休暇があり、社員全員が休暇を取れるように取り組んでいます。

②佐藤さんは実際に会社の制度を利用されたとお伺いしましたが、利用した制度と期間などを教えてください。また、利点はどのようなことでしたか。

産前6週、産後8週の産前産後休暇に加え、1年間育児休職制度を利用しました。休職中、育児など仕事をしてはできないいろいろなことを経験することができましたし、この期間に夫に育児について理解してもらうことができました。休職については、自分の業務を他の人に頼まなければならない申し訳ない気持ちがありましたが、職場内のバックアップもあったため、休職・復帰することができました。

③結婚や出産を機に生活や考え方などは変わりましたか。前後で変化したことがあれば教えてください。

独身時代は感じてはいませんでしたが、結婚してすぐに出産することを考えると、会社の制度は整っているが、自分自身の問題として、仕事を続けられるのかという不安がありました。子どもが小さい時は、自分の都合で子どもの時間を不規則にはしたくないと考えていましたので、仕事と育児を両立できるか不安に感じていました。しかし、実際制度を利用して休職・復帰してみると、不安を感じていたほど難しくはありませんでした。

④家庭において、夫婦の役割などはありますか。

夫婦で役割の分担などはしていません。私は土日が休みですが、夫はシフト制で働いているので、夫が休みの日は家事や子どもの送り迎えなどの協力を得ています。

⑤「ワーク・ライフ・バランス」が実現できることによって、会社にどのようなメリットがあると思いますか。

私たちの仕事は経験が大事ですので、年数を重ねないと果たせないものだと思います。会社としても、社員に長く勤めてほしいという考えがあるのだと思います。女性が多い会社ですから、結婚・出産とライフステージが変わっても働き続けられるように、仕事と生活の調和のとれた働き方を推進しているのだと思います。

⑥現在の制度の改善点などがあれば教えてください。

どうしても子どもを保育園に預けて働くことになります。保育園の料金はけっこう高いので、補助があれば良いと感じます。

⑦女性にとって仕事と生活のバランスをとり働くことについて、困難な点はどのようなことだと思いますか。

子どもを持つと生活のメインが子どもになるため、期間が限られている仕事をしていても急に休まなくてはならない時がどうしてもあります。それが働く上で困難な点だと思います。そういった時に職場内のサポートがありとても助かります。

⑧最後に、佐藤さんにとって働き続けることのメリットはどのようなことでしょうか。

働くことは、一つひとつに責任があることのため、緊張感を持ち続けることができます。また、仕事をやり遂げた時に達成感を得られますし、自分も会社の一員として働いているという意識から、自分が役に立っていると感ずることがあります。私自身もともと育児のみではなく仕事と両立したいと考えていましたし、会社の体制が整っているということもあり、仕事とそれ以外の生活とメリハリをつけて過ごすことができている。そうすることで、気持ちの上で余裕を持って仕事にも育児にも取り組めることがメリットだと思います。

数字で見る男女共同参画

札幌市で長時間労働している男性の割合

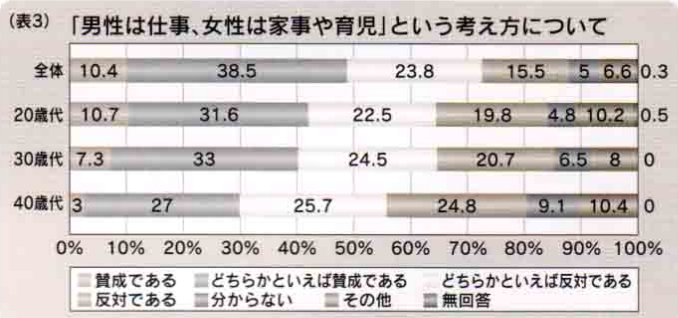
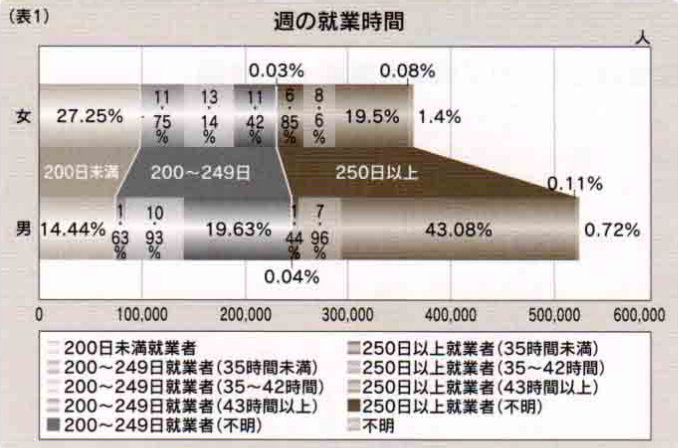
5人に2人

札幌市で年間250日以上、週43時間以上就業している男性の割合は43.08%です(表1)。労働基準法では就業時間は原則週40時間と定められていますが、『就業構造基本調査』(総務省 平成14年)によると、札幌市では年間就業日数にかかわらず、週43時間以上就業している男性の割合は62.71%です。また、年間250日以上就業している男性の割合は52.59%となっており、男性は全体的に長期間・長時間労働の傾向があるといえます。

一方、『社会生活基本調査』(札幌市 平成13年)によると、1日の家事関連活動時間は女性3.3時間、男性0.31時間となっています(表2)。家事関連活動において、男性に比べ女性がより多くの時間を割いていることがわかります。

また、『平成18年度男女共同参画に関する意識調査』(札幌市 平成18年)によると、「男性は仕事、女性は家事や育児」という考え方について、20歳代~40歳代の子育てを行う世代では、「賛成である」「どちらかといえば賛成である」は37.5%、「反対である」「どちらかといえば反対である」は46%となっており、賛成よりも反対している割合が上まわっていることがわかります(表3)。子育て世代では、約半数が性別にかかわらず仕事と家事や育児を担うことを望んでいると考えられます。しかし、全体では「賛成である」「どちらかといえば賛成である」を合わせ、約5割の人が「男性は仕事、女性は家事や育児」という考え方に賛成しており、性別による役割分担の意識が根強いのも事実です。

働くことも家事や育児も、私たちが生活する上で責任のある重要なことです。性別によって「男性は仕事、女性は家事や育児」などと決めつけることなく、一人ひとりがバランスの取れた生活を送ることが大切ではないでしょうか。



出典:『就業構造基本調査』(総務省 平成14年)
『社会生活基本調査』(札幌市 平成13年)
『平成18年度男女共同参画に関する意識調査』(札幌市 平成18年)

札幌市男女共同参画センター相談窓口のご案内

新たな一歩を踏み出すきっかけとしてご利用ください。相談は無料です。

相談窓口の種類	実施時間及び曜日	相談受付電話番号
女性のための	総合相談 火 15:00~17:00 (第2火 18:00~20:00) 木 10:00~12:00 土 10:00~12:00	728-1225 (面接・電話)
	法律相談 金 13:00~15:00(要予約) (第2金 18:00~20:00)	予約電話 728-1255 (面接/一人30分)
	心とからだ相談 火 14:00~16:00(要予約) (第1・2・3火 精神科医、心理士) (第4火 助産師)	予約電話 728-1255 (面接/一人50分)
	仕事の悩み相談 水 (第1・3・5水 13:00~17:00) (第2・4水 16:00~20:00)	728-1227 (面接・電話)
男女の人権相談	月 10:00~12:00	728-1226 (面接・電話)

気になる☆言葉

ワーク・ライフ・バランス

ワーク・ライフ・バランスとは、仕事と生活の調和という意味です。働く人が仕事上の責任を果すことで仕事以外のことができなくなるのではなく、仕事と家庭生活や育児、地域活動、勉強、健康などをバランスよく両立できる状態のことです。

現在、職場や地域の人間関係や育児によるストレスを抱える人が多くいます。また、今後さらに少子高齢化が進み、終身雇用制度が崩壊すると、「男性が仕事、女性が家庭を担えば良い」という性別役割分業の考え方では、仕事も生活も成り立たなくなると考えられます。

一方、働く現場では、女性労働者や共働き世帯の増加や、男女ともに仕事と家庭生活を両立したいと考える労働者が多くいることから、労働者の状況が変化していると考えられます。従来の男性中心の雇用形態では現状と合わなくなってきていることが予測できます。

年齢や家族構成、考え方などによって一人ひとりが求めるワーク・ライフ・バランスのあり方は様々です。男女ともに仕事や生活のどちらか一方に偏ることなく、多様なライフスタイルが選択できるよう、労働者も雇用者も働き方を見直すことが必要ではないでしょうか。

札幌市男女共同参画センター主催事業のお知らせ

女性のための再就職準備講座（全14回）

再就職を希望する女性を対象に、男女共同参画などの知識、再就職に必要なスキルアップ・マインドアップと就労に役立つ初級のパソコン（ワード・エクセル）操作を学びます。

◆実施日時：（講義 全4回）

平成20年1月15日（火）、16日（水）、17日（木）、
2月8日（金）午前10時～正午

（パソコン全10回）

平成20年1月22日（火）、25日（金）、29日（火）、
2月1日（金）、5日（火）、12日（火）、15日（金）、
19日（火）、22日（金）、26日（火）

【午前コース】午前10時30分～正午

【午後コース】午後1時30分～3時

◆対象：札幌市に居住もしくは勤務し再就職を希望する女性

◆定員：40名（午前・午後コース各20名）

◆受講料：13,700円

◆申込み方法：往復ハガキで申込み。氏名、住所、電話番号、年代、託児の有無（託児希望の方は子どもの年齢）、パソコンの希望コース（午前か午後）、応募の動機を記入。また、返信用ハガキに住所、氏名を記入してください。12月6日（木）必着。申込み多数時は抽選となり、12月7日（金）までにハガキにて結果を通知します。

◆問合せ・申込み：札幌市男女共同参画センター

（指定管理者：（財）札幌市青少年女性活動協会）

札幌市北区北8条西3丁目 札幌エルプラザ内

TEL011-728-1255

（札幌エルプラザ公共4施設事業係）

FAX011-728-1229

◆託児：1歳以上未就学児（講座申し込みと同時に受付）

事業が終了しました

女性のためのキャリア形成講座

①「輝いて働く。セクハラ・パワハラにNOと言う勇気を！」
（H19.7.24、27、31）

②「輝いて働く。ストレスマネジメントで輝く自分を手に入れよう！」（H19.8.3、7、10）

働く女性の就労生活を安全で安心なものにするきっかけとなることを目指して、雇用の安全とストレス解消の2つのテーマで講座を実施しました。

1つ目のテーマでは、北海道ウィメンズ・ユニオンの小山洋子さんを講師に迎え、働く女性たちを取り巻くセクシュアルハラスメントやパワーハラスメントなどの現状や、雇用の安全を図るための手立てについて、学びました。

2つ目のテーマでは、こころそだちの相談室みなみの西村淑恵さんを講師に迎え、女性が抱える多重役割などからくるストレスを解消するため、ストレスマネジメントについて学びました。

女性が性別によって差別されることなく、能力を十分に発揮できる雇用環境を整備するとともに、女性が担う多重役割による影響に気づき、充実した就労を続けるための手立てを学ぶ機会になったのではないのでしょうか。



編集後記

最近、私自身の仕事にかかる時間とその他の生活時間とのバランスが崩れていると感じていました。今回の16号の編集をとおして、仕事とその他の生活について心身共に健康でバランスよく生活することの大切さを改めて知ることができました。今後は、仕事と生活の調和を考えて過ごしていきたいと思います。

お便りお待ちしております

本誌のご感想、主催事業・施設利用に関するご意見をお待ちしています。はがき、封書、FAX等で、住所、氏名、電話番号をご記入のうえ札幌市男女共同参画センター「りぶる さっぽろ」係までご送付ください。（いただいた個人情報、札幌市男女共同参画センター「りぶる さっぽろ」の制作の目的以外に無断で利用することや第三者に提供することはありません）

発行月：平成19年11月
発行：札幌市男女共同参画センター
指定管理者：財団法人札幌市青少年女性活動協会
所在地：〒060-0808
札幌市北区北8条西3丁目 札幌エルプラザ内
電話：(011) 728-1255
（札幌エルプラザ公共4施設事業係）
FAX：(011) 728-1229
ホームページ：<http://www.danjiyo.sl-plaza.jp>

担当者 より

結婚しない理由！？

結婚とは、人生で大きな節目の一つだと考えられます。しかし、最近は「結婚しない人が増えた」などと言われますが、なぜ結婚しないのでしょうか？

国立社会保障・人口問題研究所によると、「適当な相手にめぐり会わない」「自由や気楽さを失いたくない」「必要性を感じない」というのが25～34歳の男女ともに独身にとどまっている理由のBEST3だそうです（国立社会保障・人口問題研究所『第13回出生動向基本調査 結婚と出産に関する全国調査』2006年）。

未婚化や晩婚化が進んだことによって、身近に結婚をしていない先輩や友達が多くいることで、それほど「結婚したい！」と感じないのかもしれませんが、さらに、札幌市の人口は全体的に女性より男性が1割以上少ない現状があり、結婚の激戦区だということがいえるかもしれません・・・。

ともあれ、結婚してもしなくても、将来自分自身で選んだ人生が満足のいくものだったと思える選択がしたいですね。